



中国日本商会

今どきコラムー101

中国雑談

労働集約型産業の変化

中国経済が資本集約型と技術集約型産業を主とするようなモデルチェンジを遂げようとしている。今後、誰が中国に代わって労働集約型産業を担うようになるのだろうか。

中国の労働集約型製造業の輸出はすでにピークか

1990年代の改革開放と2001年の世界貿易機関（WTO）加盟により労働力が解放されたことが、中国が「世界の工場」へと変化する助けとなった。世界における中国の製造業輸出の占有率は1990年の2.8%から2000年には6.8%へと上昇し、2015年には18.5%のピークへと達した。

しかし、歩き出すのも速かったが、ピークに達するのも速かった。1991年から2010年まで、中国の製造業輸出の年間成長率は世界のその他の国・地域よりも8.3ポイント高かったが、2010年～2016年には、この差は0.7ポイントしか残されていなかった。2010年以降、中国の製造業は世界シェアにおいて顕著な減少こそみられないものの、拡大はそれ以前に比べると明らかに減速している。

労働集約型製造業は主にアパレル・靴類・家庭用品・紡績品などの分野に集中している。中国が大きな強みを持ちシェアも最高の10の労働集約型業界を主に考察している。2013年、中国のこの10種の労働集約型産業の世界における輸出占有率は39.3%とピークに達し、2018年にはこの割合は31.6%にまで減少している。

この十の業界が世界の商品輸出の10%近くを占めていることを考えると、こうした変化



の過程は世界経済を再構築することになるだろう。

誰が代わりを務めるか

まず、規模が比較的大きな新興経済体の輸出国である南アジアのバングラディシュ・インド・パキスタン・スリランカ、東南アジアのカンボジア・インドネシア・ミャンマー・ベトナム、そして東欧や地中海沿岸のブルガリア、モロッコ、ポーランド、ルーマニア、チュニジア、トルコの14カ国について検討してみる。

2018年には、この14カ国で世界の労働集約型製造業輸出の19.2%を占めていた。彼らは中国の労働集約型製造業輸出の生産能力を引き継ぐことができるのか。今のところ中国に取って代わるような形跡はみられない。これはこれまでの数十年、こうした国々の輸出占有率が顕著に増加していないからだけでなく、その経済規模が中国よりもはるかに小さく、中国のGDP成長の奇跡を再演する可能性が少ないからでもある。

内陸部が沿海部に取って代わるか

もう一つの方向とは、中国国内における移転で、つまり労働集約型産業を沿海部から西部内陸地区に移動させるというものだ。第2次世界大戦後の米国にもこうした過程があり、鉄道の大規模建設とコンテナの出現に伴い、製造業は大都市からより小さな内陸部の都市へと移っていった。中国は近年、高速道路と鉄道網が拡張しており、客観的にみれば、内陸へ移動する条件は整っている。

しかし、実際にはこうした移動の過程は順調ではない。

研究によると、労働集約型産業はかなりのレベルで産業集中効果の利益を被っている。2004年、産業集中効果が最大の10の業界のうち、5つが労働集約型業界に属していた。しかし、現在の集中地はすべて沿海部であり、単独の企業では内陸へ移転するだけの原動力



は持ちがたい。

2013年、中国の五大輸出大省である広東・福建・江蘇・上海・山東・浙江が輸出の78.5%を占めていたが、2018年になっても、いまだ四分の三近い割合を持っていた。製造業はいまだ沿海部に集中していて、西部の内陸への移転現象はまだ顕著に現れてはいない。

中国のモデルチェンジはすでに始まっていて、空席が残されるのは間違いないが、誰がその空席を埋めるのかについては、いまだ謎のままだ。

日本企業（中国）研究院 執行院長

chenyan5931@163.com